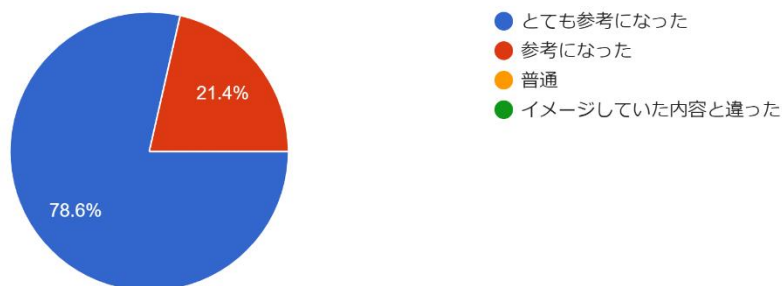


## 第17回日本視機能看護学会意見交換会セミナー交流会参加後アンケート結果 2023.7.19

今回のテーマについていかがでしたか。  
14件の回答

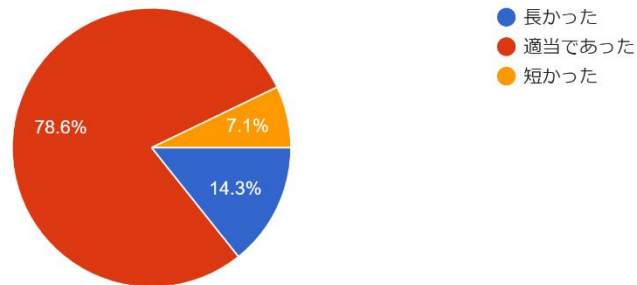


特に参考になった内容は何か。13件の回答

- 事例の患者背景の概念図がわかりやすかったです。
  - ケースワーカーが、当院にはいないので、考え方や強みと考えることに大変参考になりました。
  - Swなどと多職種連携の重要性について再認識することができました。
  - 永沼先生の考え方(アプローチ、展開、物事の捉え方など)が大変、腑に落ちました。
  - 割り箸を利用した点眼方法
  - 事例に関しての看護師としての対応や役割
  - 地域にはいろいろな支援をする団体や企業などがあること
  - 自治体によって支援が変わる?のかな。
  - 何処の施設も同じような内容で困っているという事が把握できた。
  - 援助の方法の見極め方
  - 防災登録・キャリアカウンセラー・配食サービスなどつなげる社会資源が色々あること
  - 介護保険制度の活用をとすすめていたが、それ以外にも窓口があること ソーシャルワーカーがいることで幅がひろがること
  - 支援を受けたがらない人に対してどのように介入していくかなど参考になりました。
- ロービジョンの人の生活を考えるというのがキーワードに感じました。

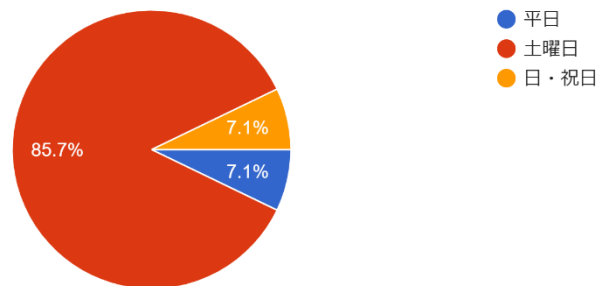
時間についてはいかがでしたか

14 件の回答



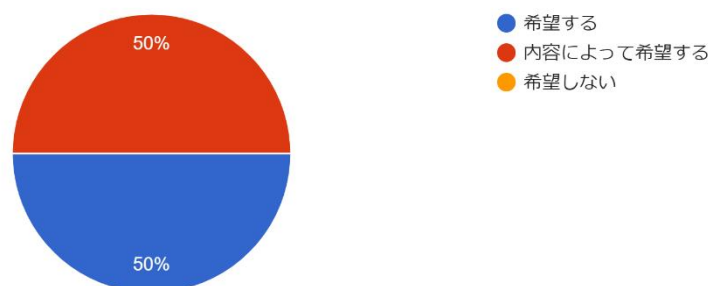
日程についての希望があれば教えてください

14 件の回答



今後も意見交換会（セミナー含む）への参加を希望しますか。

14 件の回答



今後行って欲しいセミナーや意見交換会のテーマなどがあれば教えてください。例）医療事故の予防対策（左右間違いなど）について、周術期看護についてなど 8 件の回答

● 認知機能低下を伴う視力障害患者との関わり方。アドヒアランス向上をめざす取り組みについて。

- まさしく上記の例です。部位の間違え防止策。
- 周術期看護でもっと私たちにできることはないかについて
- 小児、特に発達障害のある人や子供、認知症など理解力の低下している患者様への診察、検査の介助の工夫や点眼などの指導方法
- 独居・日中独居高齢者や認知症患者のs 家族の支援が困難な患者の点眼管理や地域支援について
- ロービジョン外来、ロービジョン食など
- 新人・新入職者の指導について  
外来ではクラークさんが入っているため、外来での患者介入などを知りたいです。

そのほか今回の患者支援に関するテーマも含め、ご意見などあれば以下にお願いいたします 9 件の回答

- 患者支援のテーマはとても、助かります。他の眼科でもやはり、似たようなケースがあり、みなさんが悩んでることに共感を得ました。ありがとうございます。
- 様々な視点からのアドバイスありがとうございました。ロービジョンケアについて医師をはじめ、SW さんや連携室とも関わりながらケアに繋がりたいと思います。このような機会を頂きありがとうございました。
- 社会資源について学ぶ機会があると助かります。
- 特にありません。ありがとうございました。
- ソーシャルワーカーに退院支援等で協力してもらおう場合でも患者さんにとって何が必要であるかまず看護師が関わるのが大切だと思った。
- 患者様に情報提供ができることがまず第一でそのための知識も必要だと思いました。その先はそれぞれの専門の方にお任せできるようにすれば良いのかと理解しました。今まで、形式的な書類(視覚障害、難病指定、介護意見書)や介護施設などへの情報提供書などは医師同士のやり取りはあってもケアマネジャーとナースとの関わりが無く、視機能や病状についての書面でのやり取りができず情報の共有ができてないと思いました。(ヘルパーさんがメモする事はありますが、理解しているかは不明) もし、他の施設で介護施設や地域サービス支援センターなどと医療機関の持続的な関わりができていた医院や病院がありましたらどのようにされているのか教えていただきたく思います。
- 総合病院の方は MSW とどのように連携を取るのかが難しいように感じました。当院は眼科単科ですが、地域へと繋ぐ際に最初は点眼ごときでとよく言われていたのですが、受容性を説明していくうちに理解していただけるようになりました。MSW さんに理解していただくための働きかけが大変なんだろうなと感じました。

●眼科としてどこまで踏み込んで患者の生活を見ていくかの線引きが難しいなと感じました

●いつも現場で困っていることなどを共有でき、勉強になります。ありがとうございます